

# こんにちは 会社訪問記

快適な環境のドリーム・ファクトリーとして  
新しい価値を創造していきたい。

## 愛知タイヤ工業株式会社

(名古屋市昭和区)

産業車輻用ノーパンクタイヤのパイオニアとして知られる愛知タイヤ工業株式会社。愛知県勤労会館のすぐ近く、空港線沿いに立地する本社にお伺いし、若杉社長と林管理部長のお二人に事業の運営方針や今後の展望などをお聞きしました。

—まず、主な事業内容を教えてくださいませんか。

若杉社長(以下若杉に略)

『フォークリフト、ショベルカー、工場内で使用する台車やコンテナなど産業車輻用のタイヤの製造・販売を行っています。主力製品の“ユニークタイヤ”は、パンクし



若杉社長

にくいタイヤが欲しいという名古屋市清掃局さんの要望を受けて開発したものの。この類のタイヤでは大きなシェアを持っています。皆さんの車輛にもお使いいただいていると思いますよ。』

—タイヤといえば、近頃廃タイヤの不法投棄が問題になっていますが…。

若杉『そうですね。当社では小牧にある処理場で廃タイヤを焼却しています。焼却時に出る煙など解消すべき問題もありますが、適正な処理体制を確立しているつもりです。』

林管理部長(以下林に略)『タイヤの焼却方法には、直接焼却、ガス化して焼却、重油化して焼却など様々な方法がありますが、当社はガス化焼却法を行っています。』

—なるほど。ところで従業員は何人いらっしゃるのですか。

若杉『現在、約240人です。毎年、中途入社も含め新入社員の採用は積極的に取り組んでいます。』

—社員教育ではどんなことに力を入れていらっしゃいますか。

林『外部の教育機関に依頼する教育のほか、当社



小牧工場

独自のQC活動を定期的に行っています。QC活動は仕事を進める上で一番の基礎教育になりますから。QC活動から汲み上げた社員のアイデアが大きな改善をもたらすことも多々ありますね。』

—会社を運営される上で、どのような指針をお持ちでしょうか。

若杉『社是の“革新”にふさわしい企業でありたいと思います。高付加価値のエラス・テック提供企業を目指して、革新とこだわりの心で変化を創造していきたいですね。』

林『エラス・テックは、エラスチック(高分子弾性体)とテクノロジー(技術)を合わせた造語。快適環境づくりのパートナーでありたいという、当社の願いがこめられているのです。』

—では最後に今後の展望をお聞かせください。

若杉『今後は自社製品は自社で処理する、という傾向がさらに強まると思います。当社も適正処理、リサイクルに今まで以上に取り組んでいきたいと考えています。再生タイヤ製造を行っている業者の立場としては、欧米並みに深く再生タイヤが浸透してくれるとうれしいですね。日本の需要はまだこれから、という感じが強いからです。』

温厚な人柄がにじみ出る気さくな口調でお話いただいた若杉社長と林管理部長。これからも前向きな姿勢でがんばってください。



社名/愛知タイヤ工業株式会社 所在地/名古屋市昭和区鶴舞三丁目1番15号  
代表者/若杉 勉 設立/昭和17年 従業員/240名  
TEL/052(731)8100 社是/革新  
事務所/本社、春日井工場、小牧事業所、東京営業所  
営業種別/収集運搬、中間処分 取扱い品目/廃プラスチック類(廃タイヤ)